

令和8年度 2年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	物理基礎＋物理	4	2	理系物理選択者

使用教科書	副教材等
「新編 物理基礎」数研出版 「物理」数研出版	「フォトサイエンス物理図録」数研出版 「リードα 物理・物理基礎」数研出版

科目の目標
<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見直しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	物理に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。
② 思考・判断・表現	身の回りにある物理的現象の中に問題を発見し、論理的に探究する過程を通して考察し、考えを的確に表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	物理の事物・現象に関心や探究心を持ち、科学的態度を身につけている。

評価方法
定期テスト、課題への取り組み、提出物（演習問題、レポート等） 学習に取り組む姿勢、実験・観察への取り組み

学習計画						
月	【単元名】	【項目】	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	運動とエネルギー	物理量の扱い方	物理量の表し方やデータの扱い方を身につけている。	○		○
		等加速度直線運動	等加速度運動の公式からの導かれる結果と実際の運動を定量的に扱えている。		○	○
		力とそのはたらき	物体にはたらく様々な力を見抜いてベクトルで表す方法を説明できる。		○	○
		仕事とエネルギー	仕事をする能力として位置エネルギーと運動エネルギーの表し方について理解している。	○		○
5	熱	熱と温度	熱を定量的扱えるようになる。熱力学第1法則について学び、熱現象を理解している。	○		○
		波の媒質の運動	波の特徴と性質について理解し、さまざまな自然現象を考え、その原理を説明できる。	○		○
6	波	音の性質	身近な音の波について、それまでの波の性質から現象を理解している。共振・共鳴現象を実験をもとに説明できる。	○		○
		発音体の振動	弦と管の固有振動を理解している。	○		○
9	電気	電流と電気抵抗	抵抗が、材質・長さ・断面積で決まることを理解している。	○		○
		電気回路	電気回路の計算ができる。	○		○
		電気とエネルギー	電力と電力量を計算できる。	○		○
物理学と社会	エネルギーの移り変わり	現在の利用しているエネルギーを考え、その移り変わりを理解している。	○		○	
	物理学が開く世界	探究活動	物理学と日常生活や社会を支えている科学技術との結び付きを理解している。		○	○
10	力の運動	平面内の運動	平面内で運動する物体を、物理基礎で学習した等加速度運動からその運動を定量的に説明できる。		○	○
		剛体にはたらく力とつりあい	大きさのある物体（剛体）について、回転する能力（力のモーメント）の考え方を理解している。剛体がつり合う条件や重心について説明できる。		○	○
		運動量と力積	2つの物体間の衝突・合体・分裂現象を、運動量保存則を使いながら理解している。		○	○
11	熱と気体	等速円運動	等速円運動を扱い、円運動の運動方程式の考え方やその周期を導くことができる。		○	○
		慣性力	加速度運動をしている観測者から物体の運動を考え、見かけの力（慣性力 遠心力）を理解している。		○	○
12	熱と気体	単振動	ばねに取り付けた物体や振り子のような、往復運動する物体を扱い、運動方程式をたて速度、加速度、振動周期など詳しく理解している。		○	○
		万有引力	ケプラーの法則を基に、惑星の運動を円運動の方程式から理解している。エネルギー保存則からロケットの宇宙旅行について自分の考えを表現できる。		○	○
1	熱と気体	気体の法則	気体の法則を中心に圧力、温度、体積の変化を理解している。	○		○
		気体分子の運動	気体分子の運動から、圧力、運動エネルギー、二乗平均速度を考えることができる		○	○
		気体の状態変化	気体の内部エネルギーと温度の関係を理解している。各状態変化の特徴とP-Vグラフを関連付けて表現できる。		○	○

令和8年度 2年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	化学基礎+化学	4	2	理系（全員）

使用教科書	副教材等
「改訂新編化学基礎」（東京書籍）、「新編化学」（数研出版）	「セミナー化学基礎+化学」（第一学習社）、「ニューステージ化学図表」（浜島書店）

科目の目標 化学的な事物・現象、物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解し、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(3) 化学的な事物・現象、物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	化学的な事物・現象、物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象、物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	
定期テスト、小テスト、ワークシート、実験レポートやその他提出物等	

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	化学とは何か	観察・実験を通して行う探究の進め方	日常生活や社会を支える身近な物質の性質を調べる活動を通して、物質を対象とする科学である化学の特徴について理解する。	○	○	○
	物質の構成成分と元素	物質の成分、物質の構成元素、物質の三態	物質の分類と分離の方法について理解する。元素を確認する実験法について学ぶ。三態の違いを熱運動の観点から説明できる。	○		○
	原子の構造と元素の周期表	原子の構造、電子配置と周期表	原子の構造と構成粒子について理解し、各原子の電子配置を表現できる。周期律と周期表での位置による元素の分類をまとめる。	○		○
5	化学結合	イオンとイオン結合、分子と共有結合、金属と金属結合、化学結合のまとめ	化学結合（イオン結合、共有結合、金属結合）の違いを理解し、結晶の分類や性質の違いを表現できる。	○	○	○
6	物質と化学反応式	原子量・分子量・式量、物質、溶液の濃度	原子の相対質量の概念を獲得し、物質の考え方を理解する。モル濃度による濃度の表し方を学ぶ。		○	○
		化学反応の表し方、化学反応式の表す量的関係	化学反応式を用いて化学反応を表現できる。化学反応の量的関係を、実験を通して考察できる。		○	○
7	酸と塩基	酸と塩基、水素イオン濃度とpH	酸と塩基の定義を水素イオン濃度の授受で表現できる。酸性や塩基性の強さをpHという指標を用いて表せる。	○		○
9		中和反応と塩の生成、中和滴定	中和反応を化学反応式で表し、生成した塩の性質を理解する。中和滴定の実験を通して中和の量的関係と滴定曲線の違いを理解する。		○	○
10	酸化還元反応	酸化と還元、酸化剤と還元剤、金属の酸化還元反応、酸化還元反応の応用	酸化と還元を電子の授受で表現できる。酸化数の変化から酸化還元を判断できる。酸化剤と還元剤の反応を化学反応式で表し、量的関係を理解する。金属のイオン化傾向から金属の反応性を実験を通して考察する。	○	○	○
	化学が拓く世界	探究活動	化学基礎で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを理解する。		○	○
	電池と電気分解	電池、電気分解	電池の仕組みや電気分解の反応を、酸化還元反応と関連付けて理解する。反応に関与した物質の変化量と電気量との関係を表現する。	○	○	○
11	固体の構造、物質の状態変化	結晶、粒子の熱運動、三態の変化とエネルギー、気液平衡と蒸気圧	金属の結晶格子について、原子半径や充填率を求められる。三態間の変化を熱運動やエネルギーなどミクロの視点で違いを表現できる。	○		○
	気体	気体の法則、状態方程式、混合気体、実在気体	気体の体積と圧力、温度の関係を式やグラフで表現できる。混合気体について分圧と全圧の関係を理解する。実在気体と理想気体の違いを表現できる。		○	○
12.1	溶液	溶解とそのしくみ、溶解度、希薄溶液の性質、コロイド溶液	溶解の仕組みを理解し、溶解度を溶解平衡と関連付けて学ぶ。希薄溶液の性質やコロイド溶液について、実験や身近な自然現象を通して理解する。		○	○
2	化学反応とエネルギー	化学反応と熱、ヘスの法則、化学反応と光	化学反応の熱の出入りをエンタルピー変化を用いて表現できる。ヘスの法則を用いて反応エンタルピーを計算できる。		○	○

令和8年度 2年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	化学基礎	2	2	文系（全員）

使用教科書	副教材等
改訂 新編 化学基礎(東京書籍)	改訂 プログレス化学基礎 (第一学習社)

科目の目標 物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	観察、実験などを通して、化学の原理・法則を見いだすとともに、基本的な概念を身につけ、科学的に探究しようとする技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	身近な物質とその変化の中から問題を見だし、探究する過程を通して、化学的に正しく判断し、的確に表現できる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、それらを積極的に探究しようとする。

評価方法
定期テスト、小テスト、ワークシート、実験レポートやその他提出物等

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	化学とは何か	探究とは 観察・実験を通して行う探究の進め方	化学の特徴である「探究」にふれ、「探究の進め方」を理解することで、化学という学問の見方や考え方について学びを深めていくことを目標とする。また、実験を行う上での注意事項についても理解する。	○	○	○
	物質の成分と構成元素	物質の成分	物質が純物質と混合物とに分類されることを理解し、実験を通して分離の方法を習得する。	○		○
物質の構成元素		物質が種々の元素から成りたっていることを理解し、単体・化合物・混合物の分類ができるようになる。元素の確認の方法を理解する。	○		○	
物質の三態		固体・液体・気体の3つの状態を、分子の熱運動の違いで説明できるようにする。	○		○	
5	原子の構造と元素の周期表	原子の構造	原子の構造を理解し、構成粒子の違いにより同位体が存在することを理解する。	○		○
		電子配置と周期表	原子の電子配置をモデルで表すことができる。元素の周期律と周期表での分類を理解する。	○		○
6	化学結合	イオンとイオン結合	原子や原子団がどのようにして電気を帯びるか、またイオンどうしの結合の仕方と組成式の表し方を理解する。	○	○	○
		分子と共有結合	原子どうしの結合である共有結合の仕方を理解する。電子式や構造式の表し方、極性、分子結晶や共有結晶の違いについて理解する。	○	○	○
		金属と金属結合	金属の性質を調べ、金属結合の方法について理解する。	○		○
7	化学結合と物質の分類		4つの結晶の分類について、結合や性質の違いを比較して説明できる。		○	○
9	物質質量と化学反応式	原子量・分子量・式量	原子の相対質量の概念を用いて、分子式や組成式で表される物質の相対質量を表すことができる。	○		○
		物質質量	物質質量の概念を学び、molを単位とする量の扱い方を理解する。	○	○	○
10		溶液の濃度	質量パーセント濃度やモル濃度で、溶液の濃度を表すことができる。	○	○	○
		化学反応の表し方	化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことができる。	○		○
		化学反応式の表す量的関係	化学反応式が表す量的関係を実験を通して理解できる。	○	○	○
11	酸と塩基	酸と塩基	酸や塩基の定義を学び、水素イオンの授受が関与していることを理解する。酸や塩基の価数や、電離度による強弱の分類法を理解する。	○		○
		水素イオン濃度とpH	水の一部が電離していることや、水溶液の酸性や塩基性の強さをpHという指標を用いて表すことができる。	○	○	○
12		中和反応と塩の生成	中和反応を化学反応式で表すことができる。塩の分類と水溶液の液性を判断することができる。	○	○	○
		中和滴定	中和滴定の実験を行い、器具の扱い方や指示薬の選択、滴定曲線について理解する。		○	○
1	酸化還元反応	酸化と還元	酸素や水素、電子の授受による酸化・還元の定義を理解する。酸化数の変化から、酸化・還元を判断できるようにする。	○		○
		酸化剤と還元剤	酸化剤や還元剤のはたらきと、そのときに起こる化学変化を化学反応式で表せるようになる。それをもとに酸化還元反応の量的関係も理解する。	○	○	○
2		金属の酸化還元反応	金属のイオン化傾向と金属単体の化学的性質が密接に関係していることを学び、実験を通して金属の性質を理解する。	○		○
		酸化還元反応の応用	電池や電気分解の原理を、酸化還元反応から理解する。		○	○
	化学が拓く世界	探究活動	この科目で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていいることを理解する。		○	○

令和8年度 2年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	生物	2	2	理系（選択者）

使用教科書	副教材等
「生物」（数研出版）	「フォトサイエンス 生物図録」（数研出版） 「リードα 生物」（数研出版）

科目の目標
<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	
記述の点検、確認、分析 および 行動の観察、確認、分析 (定期テスト、小テスト、ワークシート、ポートフォリオやその他提出物等)	

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6 7 9 10	生物の進化	生命の起源と生物の進化	生命の起源に関する考え方を理解している。	○		○
			細胞の進化を地球環境の変化と関連付けて理解している。	○		○
		遺伝子の変化と多様性	遺伝子の変化について理解している。	○		○
			突然変異と生物の形質の変化との関係を見いだして説明できる。		○	○
		遺伝子の組み合わせの変化	減数分裂と受精について理解している。	○		○
			遺伝子の組合せが変化することを見いだして説明できる。		○	○
		進化のしくみ	遺伝的浮動や自然選択について理解している。	○		○
			遺伝子頻度が変化する要因を見いだして説明できる。		○	○
		生物の系統と進化	生物の系統に関する考え方を理解している。	○		○
			生物の系統と塩基配列やアミノ酸配列との関係を見いだして説明できる。		○	○
10	人類の系統と進化	人類の系統と進化を形態的特徴などと関連付けて理解している。	○		○	
11 12	細胞と分子	生体物質と細胞	細胞の構造と機能について理解している。	○		○
			細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解している。	○		○
		タンパク質の構造と性質	タンパク質の働きと立体構造について理解している。	○		○
		化学反応にかかわるタンパク質 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	タンパク質の機能を生命現象と関連付けて説明できる。	○	○	○
1 2	代謝	代謝とエネルギー	代謝とエネルギーの関係を理解している。	○		○
		呼吸と発酵	呼吸と発酵のしくみについて、エネルギーの流れと関連付けながら説明できる。		○	○
		光合成	光合成のしくみについて、エネルギーの流れと関連付けながら説明できる。		○	○

令和8年度 2年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	生物	2	2	文系（選択者）

使用教科書	副教材等
「生物」（数研出版）	「フォトサイエンス 生物図録」（数研出版） 「リードα 生物」（数研出版）

科目の目標
<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	
記述の点検、確認、分析 および 行動の観察、確認、分析 (定期テスト、小テスト、ワークシート、ポートフォリオやその他提出物等)	

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6 7 9 10	生物の進化	生命の起源と生物の進化	生命の起源に関する考え方を理解している。	○		○
			細胞の進化を地球環境の変化と関連付けて理解している。	○		○
		遺伝子の変化と多様性	遺伝子の変化について理解している。	○		○
			突然変異と生物の形質の変化との関係を見いだして説明できる。		○	○
		遺伝子の組み合わせの変化	減数分裂と受精について理解している。	○		○
			遺伝子の組合せが変化することを見いだして説明できる。		○	○
		進化のしくみ	遺伝的浮動や自然選択について理解している。	○		○
			遺伝子頻度が変化する要因を見いだして説明できる。		○	○
		生物の系統と進化	生物の系統に関する考え方を理解している。	○		○
			生物の系統と塩基配列やアミノ酸配列との関係を見いだして説明できる。		○	○
10	人類の系統と進化	人類の系統と進化を形態的特徴などと関連付けて理解している。	○		○	
11 12	細胞と分子	生体物質と細胞	細胞の構造と機能について理解している。	○		○
			細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解している。	○		○
		タンパク質の構造と性質	タンパク質の働きと立体構造について理解している。	○		○
		化学反応にかかわるタンパク質 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	タンパク質の機能を生命現象と関連付けて説明できる。	○	○	○
1 2	代謝	代謝とエネルギー	代謝とエネルギーの関係を理解している。	○		○
		呼吸と発酵	呼吸と発酵のしくみについて、エネルギーの流れと関連付けながら説明できる。		○	○
		光合成	光合成のしくみについて、エネルギーの流れと関連付けながら説明できる。		○	○

令和8年度 2年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
理科	地学基礎	2	2	理系（選択者）・文系

使用教科書	副教材等
「地学基礎 新訂版」（実教出版）	「ベストフィット 地学基礎 New Edition」（実教出版）

科目の目標 地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	観察、実験などを行い、科学的に探究する力をつけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度をもっている。

評価方法 記述の点検、確認、分析 および 行動の観察、確認、分析 （定期テスト、小テスト、ワークシート、ポートフォリオやその他提出物等）

学習計画				評価の観点		
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	①	②	③
4 5 6	地球の構成と運動	地球の構造	地球の形と内部の層構造について理解している。	○		○
		プレートの運動	プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成について理解している。	○		○
		地震と火山	地震の発生と火山活動のしくみを理解している。 地震の伝わり方について説明できる。		○	○
7 9	大気と海洋	大気と海洋	大気の組成と層構造について理解している。	○		○
		大気大循環	地球全体の熱収支と大気の循環について理解している。 高気圧・低気圧のしくみや特徴を説明できる。		○	○
		海洋の構造と海水の運動	海洋の構造とその循環について理解している。	○		○
		日本の四季の気象と気候	日本の四季の気象の特徴を説明できる。		○	○
10 11	宇宙、太陽系と地球の誕生	宇宙の誕生	宇宙の誕生から天体の誕生まで理解している。	○		○
		太陽の誕生	現在の太陽とその誕生について理解している。	○		○
		惑星の誕生と地球の成長	太陽系の誕生と惑星の分類について理解している。 地球に生命が存在できる理由について説明できる。		○	○
12 1	古生物の変遷と地球環境の変化	地層のでき方	地層形成のしくみと堆積岩について理解している。	○		○
		化石と地質時代の区分	化石の特徴と地質年代について理解している。	○		○
		古生物の変遷と地球環境	古生物の変遷と地球環境の変化を関連付けながら説明できる。		○	○
2	地球の環境	日本の自然環境	日本の自然環境がもたらす恩恵と災害を理解し、その防災・減災について考察している。		○	○
		地球環境の科学	人間活動がもたらす環境問題を理解し、地球環境と人間生活とのかかわりについて考察している。		○	○